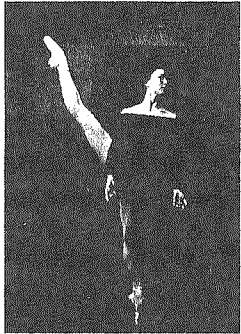


世界のプリマドンナ金原里奈さん

元イングリッシュ・ナショナル・バレエ団(以下ENB)ソリストで国際的に活躍する金原里奈さんを紹介いたします。

里奈さんがバレエを始めたのは5歳の春、お母さんに連れられて水野弘子バレエ学園に入会しました。彼女が小学校4年生のある日、学園長の私にコンクールに出たいので個人レッスンを受けたと言ってきました。かねてより里奈さんの持つ「光るもの」に注目していた私は彼女に「世界を目指すくらいの本気があるか」と聞いてみました。「あります！」と即答してきた里奈さんに「それなら私は全力で協力すると約束しました。私の務めは遠くない将来、里奈さんが更なる学



金原里奈さん

びのために次の師に就くまでです。その時にその先生がこの子は可能性に溢れているなと喜んでくださるようにと願っていました。人一倍バレエが好きで利発で向上心に溢れ誰よりも努力家の里奈さんは、ご家族の温かい愛情と応援に支えられ、実際にその高い志通りの人生を歩みました。

里奈さんが将来の目標を明確に決めたのは小学5年生の夏休みに海外のバレエ学校へ短期留学したのがきっかけでした。「外国のバレエ学校で1日中学びたい！必ず世界に通用するバレリーナになりたい！」里奈には夢でしかない夢は無い！必ず叶える『目標』しかない！「世界中の1人でも多くの人に自分の踊りを観てハッピーになってほしい」と言っていました。その『夢』を叶えるため、スカルシップ獲得を狙ってユース・

故網谷先生の遺志継いで

狂言の新指導者に井口竜也氏

城陽市文化芸術協会では、府下の協会では初めて狂言同好会が誕生しました。それは宮谷洋介参与が会長時、2005年山口県で開かれた全国文化集会山口大会で、狂言サークルの活動を目の当たりにしたのをきっかけに取り組み、趣味の体験講座から始まりま

設立以来指導していただいた故網谷正美先生の後を、今年から井口竜也先生が引き継いでいただくこととなりました。2003年に十三世茂山千五郎(五世千作)に師事されて以来、研鑽を積まれお豆腐狂言茂山千五郎家の一員として活躍されています。千五郎家のHPに掲載されている井口先生の経歴は以下の

アメリカ・グランプリ(以下YGP)に出場。2011年大会日本予選でベスト12入りし、NYで開催された世界決選大会で上位入賞。翌2012年YGPに再挑戦し見事日本大会ジュニア部門で優勝を果たします。そして臨んだ世界決選大会で念願叶い、第1希望だったプリンセス・グレース・バレエアカデミーの奨学金を獲得しました。立命館宇治中学校の中等課程を3年生の2学期で修了し、その年の秋モナコ公国へ留学。高校は渡欧してから通信教育で修了しました。里奈さんにとって、最初の過酷な修行はクラスにも寮にも他の日本人と接点が全く無く、一切日本語でコミュニケーションが取れなかったことでした。それが乗り越えるべき第一の壁。半年ほど経ったある時突然仲間が話す英語が聴き取れるようになり、それから日々楽しくて仕方なくなつたそうです。厳格なアカデミー校長のルカ・マサラ先生が自分のことを信じて厳しい境遇に置いてくださったのだと理解し大きな愛を感じ

じたと里奈さんは後になって語っています。彼女は毎年トップの成績で進級し、3学年ずつと授業料が免除されるほど優秀でした。3年生の時にはプロダンサーへの登竜門として名高いローザンヌ国際バレエコンクールにアカデミーの女子生徒からただ1人選ばれ出場しました。5位入賞とプロ研修賞を受賞、そして最も強く望んでいたENBとの契約が決まりました。ENBは年間を通して公演回数が多いことも多いことで知られるツァーカンパニーで、怪我などで欠員が出た時には直ぐに踊れるなら例え若手でも起用されます。17歳で入団した里奈さんは日々の地道な努力が実を結び、次々と踊る機会に恵まれました。2016年ヴァルナ国際バレエコンクールのジュニア・カテゴリーで銀賞を受賞。2017年バレエ団内コンペティション「エイマージング・ダンサー・アワード」で優勝。入団2年目にして「くるみ割り人形」全幕主演に大抜擢された他、『白鳥の湖』『ラ・シルフィード』を主演。2018年にはソリストに昇格。クラシックからコンテンポラリーまで様々な作品からコンテンポラリーまで様々な作品から2023年、8年間を駆け抜けた

通りです。

1976年7月22日 滋賀県で生まれる

2003年 十三世茂山千五郎(五世千作)に入門・師事

『しびり』のシテで初舞台

2004年 京都能楽養成会入会

2011年 独立、京都能楽養成会卒業、京都能楽会入会

同門 増田浩紀、島田洋海、鈴木実・山下守之と共に「五笑会」を 結成

2013年 能楽協会入会

狂言は、古くからある日本の伝統芸能で、喜劇です。ちよつと間抜けの主人

を使用人がやつけるストーリーが多く、クスツと笑えて、面白い。セリフを覚えて、腹の底からの大きな声で言葉をしゃべるので、健康によい。またボケ防止にもなります。

現在、月2回、福祉センターの和室で、若い先生に、男女数人が、楽しく習っています。文化芸術協会の春いちばんでは、衣装を付けて舞台で演じています。是非一緒にやりましょう。お待ちしております。

(城陽狂言同好会)

こころにも二刀流

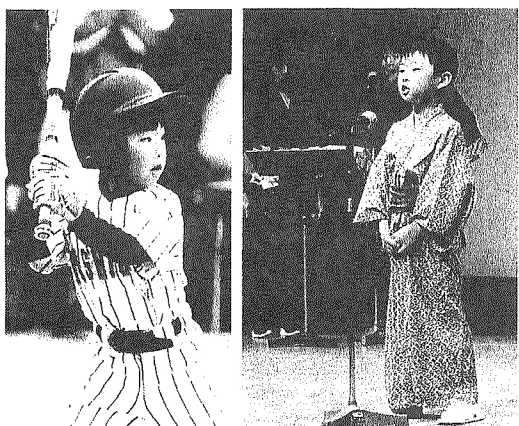
民謡の山本健心くん

バレエ団 団員昨年日本に帰国。現在はバレエの指導のほか、英語を教えたりピラティスの資格取得にも取り組んでおり、今後の活動が期待されます。

(水野 永子記)

野球界で二刀流といえば、大谷翔平選手ですが、城陽市文化芸術協会にも小さな二刀流がいます。その名は山本健心君(9歳)小学校4年生。彼は地元少年野球チームに所属し、毎週泥まみれになりながら汗を流し、大きな声を張りあげて、練習に励んでいます。去年の5月、地域大会のカメラに撮られ新聞に大きく掲載されました。そんな健心君がもう一つ取り組んでいるのが、当協会の芸能連絡会所属 梅若朝寿恵乃会の民謡です。

今年2月に行われた、「春いちばん芸能のつどい」では、ソーラン節を見事に歌い上げ、大きな拍手を浴びました。日頃、野球の練習で大きな声を出すのは、お手の物。何よりも節回しを覚えるのが早く、我々年寄組もただただ感心するばかりです。だからと言って我々も諦める必要はありません。



せん。「年齢なんてただの数字である」と考えている人は、記憶力が高く、一方、「加齢は運命であり避けることは出来ない」と考えている人は記憶力が低く、ストレスに過剰に反応するのです。簡単にすぐできる事はやりやらず、自分の限界をほんの少し超える程度に無理をする事がいつまでも若々しさを保つ秘訣であると言われています。皆さん頑張りましょう！(中島 正晴記)

サークル紹介

はんこや noru

趣味で消しゴムはんこを作っている「はんこや noru」です。主にスポーツや楽器を弾いているはんこを作っていて、部活を頑張っているお子様や友達へのプレゼントとしても気に入っていただいています。

そのほか、子供向けに動物や乗り物、インシヤルやアルファベットなど、たくさんありますので、また手に取って見て頂けたらと思います。



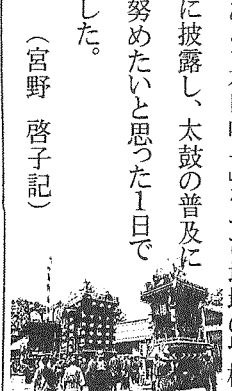
(横尾 美樹記)

水口囃子と和太鼓

桜の花は昨年より長く咲き続き、私たちが楽しませてくれました。桜の花も終わり、新緑の季節が始まりました。4月19日、20日の両日に滋賀県水口町で、水口曳山祭りが開催されました。

水口曳山祭りは、滋賀県で無形民俗文化財に指定されている五穀豊穡を願う祭りとして、毎年、開催されています。目にも鮮やかな飾りが施された高さ6メートルの「ひきやま」といわれる山車(だし)の中で、太鼓や笛、鉦で「水口囃子」の演奏が延々と繰り返されます。20日の日にも水口神社まで山車が巡行されました。

私は和太鼓を30年近く続けており、地域のお祭りには、必ずといっていいほど、「水口囃子」を演奏します。一度、本物を聴きたいと有志数人と、4月19日、水口町へ行きました。現地に到着すると見物客や屋台も多数出店され、祭りは大賑わいでした。「水口囃子」の曲が鳴り響き、その迫力に圧倒されました。各町内で山車が保存され、小さい子どもから大人まで「水口囃子」を楽しそうに、また凄まじく軽々と演奏されているのが印象的でした。毎年、この日のために練習を積み重ねられているのだと感動しました。私たちもこのような迫力ある「水口囃子」をぜひ地域の皆様



(宮野 啓子記)